

# 第2回石川県DX推進本部会議

日時：令和8年7月9日（木）15:00～  
場所：オンライン

## 次 第

- 1 開会
- 2 知事あいさつ
- 3 議事「石川県DXビジョン（骨子案）について」
- 4 有識者コメント
  - ・石川県デジタル化推進アドバイザー 丹 康雄 氏
  - ・一般社団法人 石川県情報システム工業会（ISA）会長 小清水 良次 氏
  - ・一般社団法人コード・フォー・カナザワ代表理事 福島 健一郎 氏
- 5 意見交換
- 6 閉会

（資料1）石川県DXビジョン（骨子案）

（資料2）今後のスケジュール

（参 考）有識者への意見聴取結果

## 第2回石川県DX推進本部会議 名簿

職		氏名
本部長	知事	山野 之義
本部長代理	副知事	酒井 雅洋
本部長代理兼CDO	副知事	浅野 大介
本部員	警務部首席参事官（警察本部長代理）	高井 充人
	教育長	塩田 憲司
	総務部次長（総務部長代理）	横越 弘行
	戦略広報監	中塚 健也
	デジタル推進監	番匠 啓介
	危機管理部長	竹沢 淳一
	能登半島地震復旧・復興推進部長	新田町 弘幸
	企画振興部長	矢後 雅司
	文化観光スポーツ部長	戒田 由香里
	健康福祉部長	塗師 亜紀子
	生活環境部長	成瀬 英之
	商工労働部長	西村 聡
	農林水産部長	松本 博樹
	競馬事業局長	北村 裕一
	土木部長	木村 康博
	出納室長	山本 潤
有識者	石川県デジタル化推進アドバイザー 北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）副学長	丹 康雄
	一般社団法人 石川県情報システム工業会（ISA）会長	小清水 良次
	一般社団法人コード・フォー・カナザワ代表理事	福島 健一郎
事務局	デジタル推進監室	

# 石川県DXビジョン

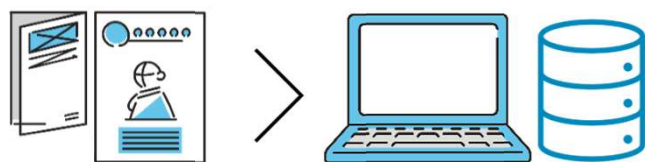
(骨子案)

2026年7月時点



# 「デジタル」をめぐる石川県の現在地

業務基盤のデジタル化を土台に、**今後はデジタル改革（DX）へ**



## デジタイゼーション (紙と業務のデータ化等)

- ▶ 紙の日報をExcel入力・管理に
- ▶ 文書決裁を電子決裁に
- ▶ ビジネスチャットによる情報共有

場所に縛られず業務を遂行  
情報の共有・検索が容易に

## デジタライゼーション (業務プロセス改善)

- ▶ 業務プロセスを全体可視化
- ▶ 個々の業務システムを自動連携
- ▶ 定型業務の自動化（RPA）

関連する業務システムを連携  
業務プロセスを最適化

## デジタルトランスフォーメーション (仕組み・構造の変革)

- ▶ AIによる業務の自動化・最適化
- ▶ インフラ劣化の予測・補修判断
- ▶ 災害時の避難判断を迅速化

利用者目線、分野横断の連携、  
先読み・先回りの実現

「石川県デジタル化推進計画」(R3~R7)



現在地

「石川県DXビジョン」に基づき、DXのステージへ

1

# D X がもたらす変化①

## 供給者目線から「利用者目線」「分野横断の連携」の社会へ

データ・AI等のデジタル技術の活用により、組織や分野の垣根を越えた連携が容易となり、行政やサービス提供の考え方が、「供給者目線で何を提供するか」から**「利用者目線で何が必要とされているか」**に変わっていく

### 供給者目線

#### 「タテワリ」の社会

- ▶ 行政や民間企業では、部局・部門ごとに制度やサービスが構築されており、利用者のニーズに対し、一体的なサービスを提供することが難しい



### 利用者目線

#### 「ヨコグシ」の社会

- ▶ 共通のルールやデータに基づき、複数サービスを連携させることで、利用者が一連のサービスをシームレスに利用しやすくなる

## D X がもたらす変化②

デジタルの得意分野を生かし、「先読み・先回り」「フェーズフリーの実現」の社会へ

たとえば、地方社会にはこうした重大な課題が存在する

全国的に公共インフラ  
の老朽化は進み



更新・維持コストは  
年々増大

地方は専門人材が  
不足している中



人口減少・少子高齢化  
の進行

災害リスクは  
近年高まっている



能登半島地震・奥能登豪雨など  
大規模災害の発生

平時はドローン等による点検やデータ分析、災害時は迅速な被害把握など、  
広域監視やデータの蓄積・分析といったデジタルが得意な領域はデジタルに任せ、

**人は先読み先回りの判断や調整に注力できる**ようになる

# D Xに向けた行政・事業者の共通課題

## ① 情報・手続がバラバラで利用しづらい状態

- ・同じ情報が複数の手段で発信され、利用者が見つけにくい
- ・サービスや手続ごとに利用方法が異なり、わかりにくい
- ・手続ごとに同じ情報の記入が繰り返し求められる

## まとめる

- ▶ 「利用者目線」に立って情報や手続、サービスをまとめて提供することで、迷わず利用できる



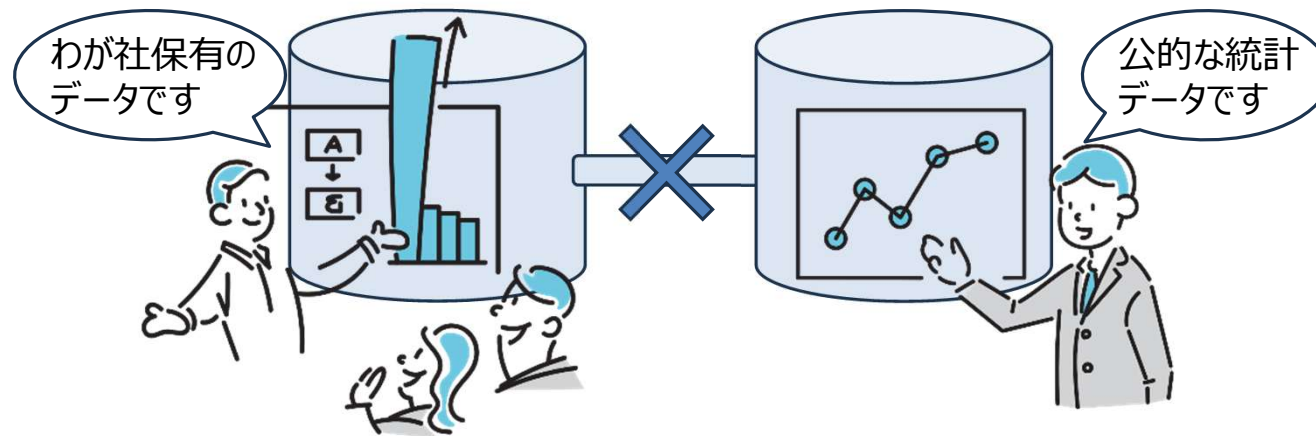
## D Xに向けた行政・事業者の共通課題

### ②情報がつながらず、活かされてない状態

- ・データやシステムが組織ごとにわかれ、つながっていない
- ・情報を組み合わせるのに時間がかかり、課題が見えにくい
- ・全体像が把握できず、適切な判断や対応が遅れる

### 組み合わせる

- ▶ 官民、分野、地域の「垣根を越えて」**データ・取組を組み合わせる**ことで、全体を踏まえた判断や対応ができる



個々のデータはあるが、  
連携されていない

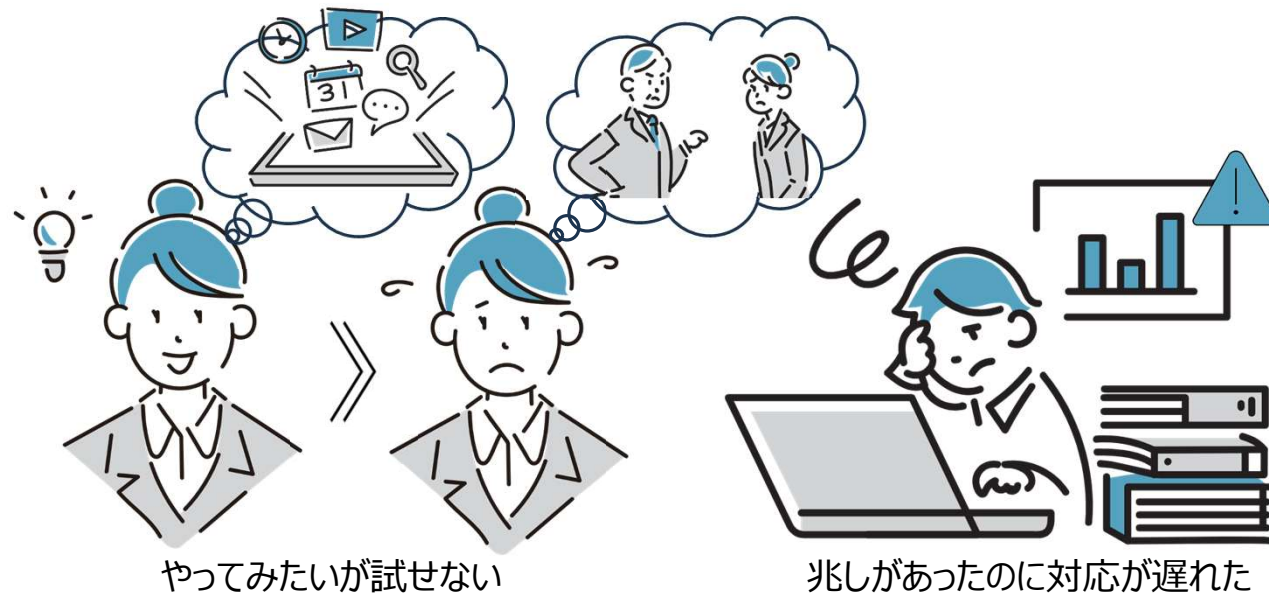


全体像が見えず、  
判断や対応ができない

## D Xに向けた行政・事業者の共通課題

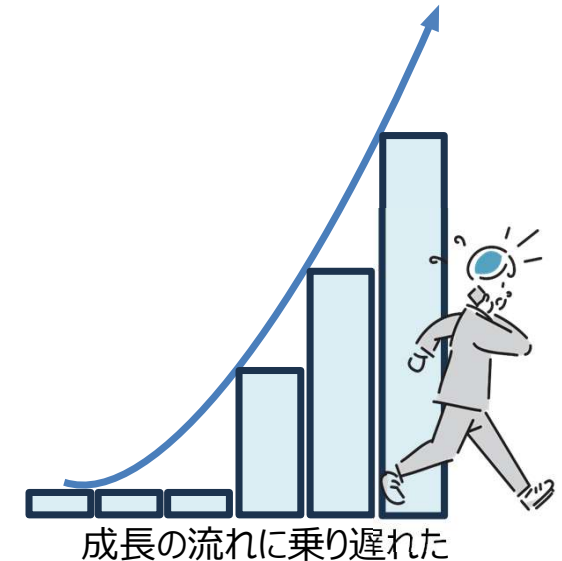
### ③現状から、新たな取組に踏み出せない状態

- ・現場の気づきやアイデアを試せず、具体的な取組に移せない
- ・変化やリスクの兆しを捉えられず、適切に対応できない
- ・新しい技術や手法をすぐ試せず、チャンスを逃してしまう



### やってみる

- ・失敗を恐れず、「果敢に挑戦」し、柔軟な発想でまずやってみることでチャンスを逃さず、リスクに対応ができる



## 具体の施策例（作成中）

行政のオンライン化・キャッシュレス化・証紙廃止や情報発信など  
情報・手続きの集約イメージ  
（まとめる）

ドローン利活用・ハッカソンなどの  
部門・分野間連携のイメージ  
（組み合わせる）

DXチャレンジ事業・成長戦略ファンド、里山みらいファンドなど、  
庁内、事業者支援のイメージ  
（やってみる）

## 目指す社会（デジタル改革（DX）がもたらす変化）

- ①供給者目線から「利用者目線」「分野横断の連携」の社会へ
- ②デジタルの得意分野を生かし、「先読み・先回り」「フェーズフリーの実現」の社会へ

## ビジョン実現に向けた視点と施策の方向性

### 視点1 まとめる

- ▶ 利用者目線に立って情報・手続、サービスをまとめて提供

### 視点2 組み合わせる

- ▶ 行政と民間、分野間の垣根を越えてデータ・取組を組み合わせる

### 視点3 やってみる

- ▶ 失敗を恐れず、果敢に挑戦し、柔軟な発想でまずやってみる

視点を踏まえた  
施策の方向性

### 施策1 社会のあらゆる場面でのDXチャレンジの促進

- ▶ 事業者への人材・技術・資金支援、職員のDXチャレンジ促進

### 施策2 一度で完結する行政サービスの構築

- ▶ 行政手続きのオンライン化・キャッシュレス化、情報発信手法の整理

### 施策3 デジタルで効率化・高度化する行政運営の実現

- ▶ 県・市町のデジタル技術による業務効率化、業務システムの統合

### 施策4 平時も災害時も機能するデジタルライフラインの推進

- ▶ フェーズフリーに向けたドローン、衛星、システム連携などの技術実証

### 施策5 現場から変革を担うDX人材の育成

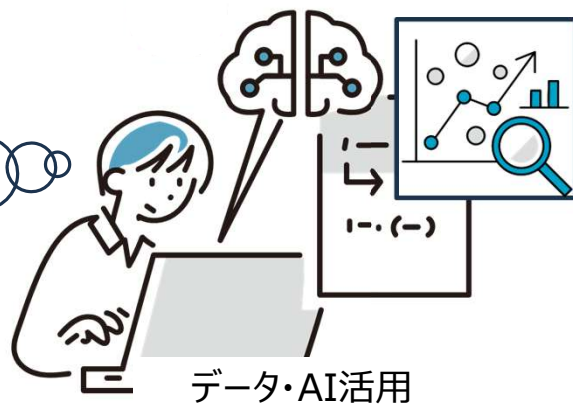
- ▶ 産業界向け人材育成、職員のデジタルスキル向上

## 施策の方向性

### 1. 社会のあらゆる場面でのDXチャレンジの促進 (事業者・行政)

日常の県民生活を支える医療・福祉、生活環境、産業（農林水産、製造、観光・サービス）、教育、インフラ（道路、鉄道、港湾、空港等）など様々な場面で発生するデータの蓄積やオープンデータ化、AIを活用した分析・利活用を進めるとともに、人材・技術・資金の面から**社会のあらゆる場面でのDXチャレンジを促進**します。

これらの取組により、**行政や民間、分野間の垣根を越えた連携・共創を進め、石川県が抱える社会課題の解決やイノベーション創出**につなげます。

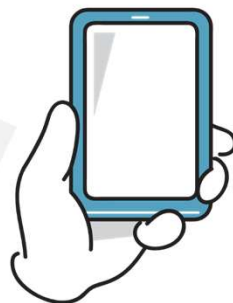


## 2.一度で完結する行政サービスの構築 (行政)

同じような情報や手続きをひとつにまとめ、データ・AIで住民一人ひとりのニーズを捉えて、適切なタイミングでプッシュ型で通知するとともに、利用者にとっては、窓口に行くことも書く手間もなく、どこにいても、申請や支払いなどの**手続きが一度に完結する、迷うことのない行政サービスの構築**を目指します。



情報・手続きを集約

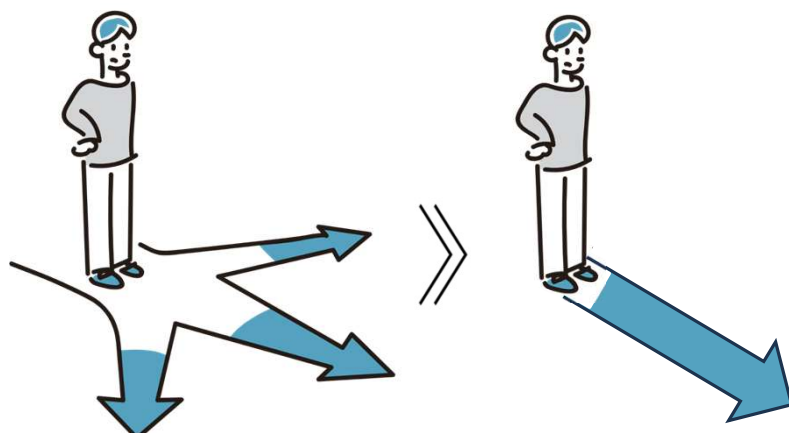


プッシュ型の通知→申請・支払い手続<完結>

### 3. デジタルで効率化・高度化する行政運営の実現 (行政)

前例にとらわれず不断の見直しを行い、業務の流れや役割分担を点検・改善し、デジタルが得意な分野はデジタルに置き換えるほか、各分野で構築された業務システムを整理・統合することで、業務の進め方や手順を統一（標準化・共通化）し、業務全体を効率的な形へと組み直す、BPR（*Business Process Re-engineering*）を推進します。

あわせて、県が、市町におけるBPRの取組を支援することで、**県全体としてデジタルで効率化・高度化する行政運営を実現**します。



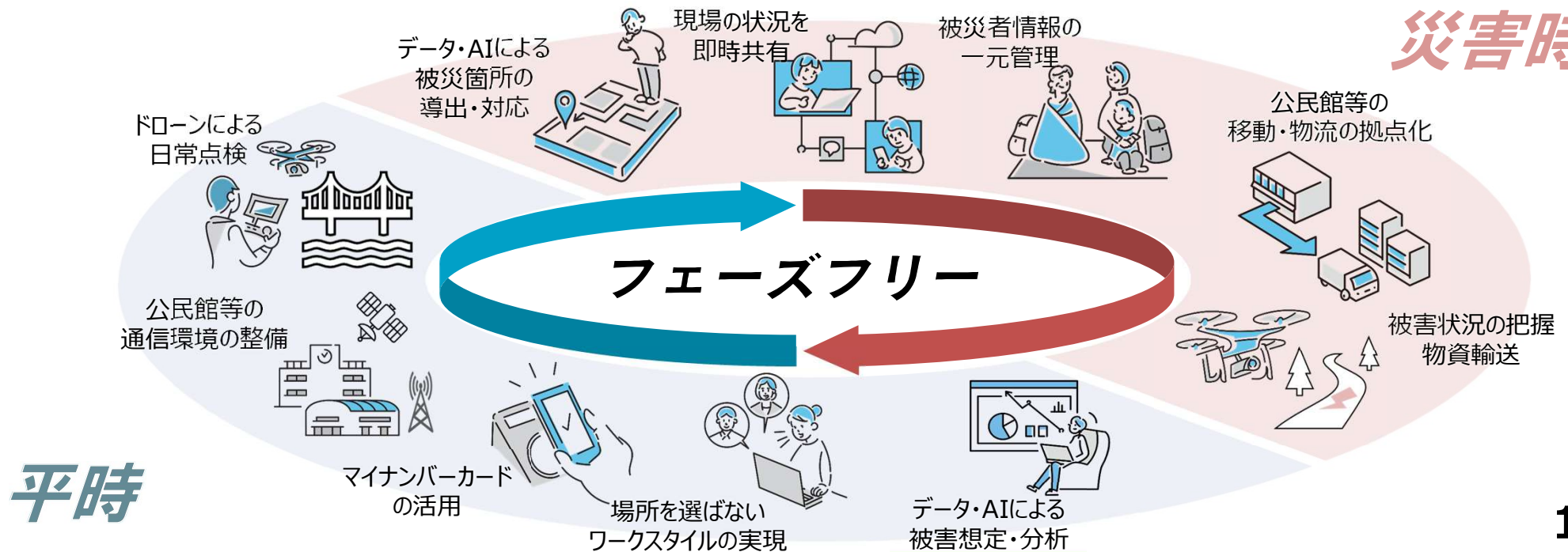
進め方・手順を統一し、業務を効率化



前例にとらわれず  
不断の見直しを

## 4. 平時も災害時も機能するデジタルライフラインの推進 (事業者・行政)

令和6年能登半島地震・奥能登豪雨の教訓を踏まえ、国や市町、通信事業者など多様な主体が連携し、ドローン、衛星、AIなどのデジタル技術を活用して、平時の利便性向上と災害時の対応力強化を両立する「フェーズフリー」を実現するため、デジタルライフラインの整備を推進します。



## 5.現場から変革を担うDX人材の育成 (事業者・行政)

各分野においてDXを促進し、現場での経験の蓄積を図るとともに、社会人の学び直しや次世代への教育機会の提供を一体的に推進することで、データ・AIなどのデジタル技術を主体的に活用し、**現場からビジネスモデル・業務プロセス・組織文化の変革を担うDX人材の育成**を目指します。

また、意欲ある人材の挑戦を後押しするため、行政や企業、教育機関などが連携し、実践と学びを通じて人材が育つ好循環を構築します。



# ビジョンの位置づけ

本ビジョンは、「県全体でのDX（デジタル改革）の推進に向けた羅針盤」の役割を担うものであり、令和5年（2023年）9月に策定した「石川県成長戦略」及び、令和6年（2024年）6月に策定した「石川県創造的復興プラン」の実現に向け、DX推進の観点から補完しており、評価指標や、本ビジョンに記載のない施策体系については、これらに準じます。

これらの計画については、官民データ活用推進基本法（平成28年法律第103号）第9条に基づく「都道府県官民データ活用推進計画」としても位置付けています。



## 計画期間

社会情勢の変化や技術革新のスピードが著しいことから、本県を取り巻く、デジタル化の進展や環境の変化に柔軟に対応していくため、計画期間については**終期は設定せず、毎年度の取組状況等を踏まえて適宜見直しを検討**していきます。

## 推進体制

本ビジョンの推進にあたっては、県民をはじめ、国や県、市町、教育機関、産業界に加え、各分野の関係団体が連携・協働することはもとより、**県内外の知恵を結集し、組織・分野横断的に諸施策を推進**します。

# ●石川県の令和8年度の主な取組<概要>

付 属 資 料

施策の方向性	主な施策
1. 社会のあらゆる場面でのDXチャレンジの促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DXによる先進的な取組へのチャレンジ促進&lt;デジ&gt;【6補】</li> <li>・里山みらいファンドによるスマート農業機械の導入などへの支援&lt;農林&gt;【〃】</li> <li>・フィジカルAI活用ものづくり拠点の整備（工業試験場内）&lt;商労&gt;【〃】</li> <li>・成長戦略ファンドによる事業者支援&lt;〃&gt;</li> </ul>
2. 一度で完結する行政サービスの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・証紙廃止に向けたキャッシュレス端末の整備&lt;出納・デジ&gt;【6補】</li> <li>・行政手続きのオンライン化の推進&lt;デジ&gt;【-】</li> <li>・ホームページ、SNSなどの発信手法の整理&lt;広報・デジ&gt;【-】</li> <li>・広域データ連携基盤「いしかわデータ利活用マップ」&lt;デジ&gt;【当初】</li> <li>・総合防災情報システムの管理運営&lt;危機&gt;【〃】</li> </ul>
3. デジタルで効率化・高度化する行政運営の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庁内の業務改革（BPR）支援体制&lt;デジ&gt;【-】（4/24～）</li> <li>・市町の業務改革（BPR）支援&lt;デジ&gt;【6補】</li> <li>・市町の基幹業務システム標準化・ガバメントクラウド移行支援&lt;デジ&gt;【当初】</li> <li>・汎用統合型GIS（地理情報システム）の構築&lt;デジ&gt;【6補】</li> <li>・新財務会計システムの導入&lt;出納&gt;【今後】</li> </ul>
4. 平時も災害時も機能するデジタルライフラインの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県職員が使用する情報ツールの機能強化&lt;デジ&gt;【6補】</li> <li>・奥能登版デジタルライフライン <ul style="list-style-type: none"> <li>・自律飛行型ドローンの効果的な活用モデルの構築&lt;〃&gt;【〃】</li> <li>・国実証事業「のとピット」の浸透・拡大&lt;〃&gt;【〃】</li> <li>・被災者データベースの運用【当初】</li> <li>・避難所管理システムの運用&lt;危機&gt;【〃】</li> </ul> </li> </ul>
5. 現場から変革を担うDX人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DXによる先進的な取組へのチャレンジ促進&lt;デジ&gt;【6補】（再掲）</li> <li>・県職員のデジタルスキル向上（業務自動化・効率化ツール、生成AI等）&lt;デジ&gt;【当初】</li> <li>・産業界向けのデジタル人材育成事業&lt;商労&gt;【〃】</li> </ul>

# 今後のスケジュール

資料2

- **第2回 石川県DX推進本部会議（7/9）**  
⇒会議結果を踏まえ、「石川県DXビジョン（骨子案）」の内容を具体化
- **ビジョン（素案）公表・パブリックコメントの実施（8月下旬～）**  
「石川県DXビジョン（素案）」を公表し、パブリックコメントを実施
- **ビジョン最終調整（9月下旬～）**  
パブリックコメント・議会での議論をビジョンに反映



**秋頃、石川県DXビジョンを策定・公表**

# 有識者への意見聴取結果

1

## 杉井 正克（総務省 地方公共団体の経営・財務マネジメント強化事業アドバイザー）

人手不足が進む中で省力化しないと現場が回らなくなるという前提があり、**デジタル技術を活用し、効率的な業務改善に取り組む必要がある。**

一方で、その担い手となるDX人材は採用や定着が厳しい状況にあり、**中途採用や一般職からの転換も含めた人材確保に加え、人材の適正配置を進めることが必要であり、改善や挑戦が評価される仕組みが重要**となる。

こうした人材面の課題がある中でも、現場を見ると、業務改善への熱い思いを持っている人は一定数いる。ただ、せっかく出てきたアイデアも、その場限りで終わってしまうと広がらないため、まずはこうした**取組が注目される仕掛け**をつくり、**関心を持ってもらうことが大切**である。その上で、**実現可能なものは現場で小さく試し、効果を検証しながら少しずつ形にしていく**。こうした**取組を続けていくことで徐々に浸透し、業務改善に手を挙げる人が増えてくる**。

また、県と市町との関係では、県が考えたことがそのまま現場で受け入れられるとは限らない。県から押し付けるのではなく、市町のトップも巻き込みながら組織として動きやすい環境をつくり、**ニーズの高いところは共通化を進めるなど、県全体として一体的に進めていくことが求められる**。

## 高田 佳紀（防災DX官民共創協議会検討部会統括）

ビジョンの目指す「先読み・先回りの社会」は、フェーズフリーと一体的に捉えることで、その実効性がより明確になる。

石川県は、能登半島地震の経験・教訓として、「平時に必要な備えを導き出す視点」と「平時から有事を見据えた取組を先読みする視点」の両方の視点を有しており、**DXビジョンの策定にあたっては、その考え方を、組織や分野など横断的な施策の方向性として整理しつつ、それに基づいて、具体的な施策に反映していくことが重要**と考える。

DXの本質は「トランスフォーメーション（X）」であり、単なるサービス提供にとどまらず、**現場起点の課題解決を重視すべき**であり、**利用者目線に立ち、市町や企業、教育機関など多様なステークホルダーと継続的に連携しながら、取組を深化**させていくことが求められる。

一方で、先読み・先回りは不確実性を伴うため、**試行錯誤や失敗を前提とした挑戦を支える仕組みと風土を整備することが不可欠**である。部局横断の体制のもとで挑戦を継続的にマネジメントし、**成果と学びを蓄積**していくことでDXに関わる人材を増やし、**挑戦や連携の過程を可視化・発信**していくことが、今後の推進力の鍵となる。